

# ザワメキアート展2026 作品募集



応募締切：2026年6月1日（月）

作品情報は、別紙の「長野県にお住まいの障がいのある方の作品や表現活動をご紹介ください!」をご確認いただき、情報をお寄せください。  
※なお、応募締め切り後にお寄せいただいた作品情報は、今後のセンターの事業に活用させていただきます。

今年のテーマ

ざわめく表現と

その向こうにあるモノガタリ

『ざわめく表現とその向こうにあるモノガタリ』をテーマに展示を計画しております。アートを表現という言葉にしてみると、単に作品（造形物）という狭い視野から、障がいのある人のしぐさ、こだわりから生まれる行為もその人なりの表現する姿と言えます。『表現』に対する視野が広がります。そして『なんでこんな表現するんだろう?』と考え、その表現の背景、表現者のこれまでの人生、といった情報をもとに作品と向き合ったとき、様々な想像が膨らみ、心がざわざわします。なかなか理解できない表現も含め、『おお!』と驚く、『なんか不思議だ。』といった見る人の心をざわめかせる表現を探しています。表現する行為画像・動画もオクケーです。意外に身近にあるものかもしれません。これまでのザワメキアート展は寄せられた情報をもとに作者を絞り、訪問し取材をしたうえで作品展示をしてきました。今年度も寄せられた情報から絞り、取材を丁寧に重ねるものとします。また寄せられた情報はセンター主催の他の展示への出展依頼をする場合があります。（ザワメキアート展2026 キュレーター 関孝之）

## 関孝之がざわめく表現：過去のザワメキアート展から



### 佐藤 元子 さん

お母さんとの二人暮らしの際、お母さんは仕事で元子さんは一人留守番をしていた時、セロハンテープを切ってくるっと丸くしてそれを積み重ねていた。お母さんが亡くなってからその行為はもっと多くなったという。支援する施設のスタッフはセロテープは本来何かを繋ぎとめるもの。優しくったお母さんへの想いがそうさせているのかもしれない。

### 月内 祐樹 さん

よく見ると小さな文字の積み重なりが塊のようになっている。街中で見た看板の文字や、つぶやきのような言葉が極小さく書き込まれている。なんて書いてあるの、と聞いても答えはくれない。



### 西村 美恵子 さん

制作スタイルは変わらない。ぐるぐると線を引いていくうちに顔が現れ、口のあたりがまるで何かを吸い込む、あるいは吐き出すかようになっていく。制作は突然終わり、スタッフとハイタッチをして自室に戻っていく。まるで儀式のようにも思える。これは誰か特定の人なのか、もしくは顔ではないのか、本人に尋ねても答えは返ってこない。

### 宮下 一夫 さん

ふるさとの実家から見ていた浅間山、長く暮らした病院の窓から見ていた浅間山。宮下さんはこれまでままたまらない人生を送ってきたようだ。理不尽な思いもし、苦労してきた。マグマ?はその象徴なのかもしれない。

